ゴボウ君と大根君

村山籌子

青空文庫

大根とごぼうが　一しよに暮してゐました。

或日、大根の所へ　手紙が参りました。その時、大根は用事があつて外出してゐましたのでごぼうが代りに受け取りました。ごぼうは、なかに、どんな事が書いてあるか　知りたくてたまりませんでした。けれども、いくらごぼうでも、「ひとに来た手紙を、ことわりなく勝手に開ける事はよくない事である。」といふ位のことはよく知つてゐます。ごぼうは手紙を大根の机の上に置いて、大根の帰つて来るのを待つ事にしました。

ところが、どうしたものか、大根は仲々帰つて来ないのです。で、ごぼうは、辛抱しきれなくなつて、手紙の封をピリピリと引きさいて、そつとひろげて見ると、こんな事が書いてありました。

「大根君、うわさによると、君は、大根のくせに、ごぼうと一緒に住んでゐるさうぢやないか。僕などは　あのうすぎたない茶色の、毛だらけの、顔を見た丈で、気持が悪くなるよ。すぐに、こつちへ来て、僕たちと一緒に暮し給へ。白井大根」これを読んだ時のごぼうの気持はどうだつたでせう。ごぼうはワアワアと　机にもたれて一時間以上も泣きました。何故といつて、手紙に書いてあつた事は　全くほんとの事だつたからです。

泣く丈け泣いたごぼうは、鏡の前に行つて、カミソリで、毛をすりおとさうとしましたが、かたくてとれません。それからお風呂にはいつて、石けんでごし〳〵と身体中

を　こすりまわしました。茶色の身体は　仲々白くなりません。たうたう　ごぼうは　風邪を引きました。

「ハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン」クシヤミは　とまりません。

その時、やつとの事で家に帰つて来た大根は、ごぼうが風呂場で　立てつづけに　クシヤミをしてゐるのを見て、びつくりしました。

「おい、ごぼう君、どうしたのさ。」

「すまないことをしたんだよ、大根君、実は君に来た手紙をハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン、ハクシヨン。」

「ごぼう君、どうしたんだよ。早く言ひ給へ、僕は、あんまり歩いたので、もう眠くて眠くてたまらないんだからね。」

「ぢや言ふよ。ハクシヨン。」言ひかけて、恥しくなつたごぼうは　大根の耳の所へ　口を持つて行つて、

「実はね、君、ハクショーン」

ごぼうのクシヤミが、あんまり大きかつたので、大根は耳をおさへて　とび上りました。そして、腹を立てて、自分の部屋の寝台にもぐり込んで　寝てしまひました。ごぼうも仕方なく　自分の部屋へ行つて　眠つてしまひました。

明(あく)る日起きた時には、大根もごぼうも、昨日(きのふ)の事はすつかり忘れてしまつて、いまだに思ひ出さないで、ごぼうは元のまゝの茶色で、毛だらけの顔をして　平気で暮してゐます。お野菜ですから、それは致し方ありません。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第二六巻」ほるぷ出版
　　1978（昭和53）年11月30日初刷発行
初出：「コドモノクニ」東京社
　　1938（昭和13）年2月
※底本の本文は、著者訂正稿によります。
入力：菅野朋子
校正：noriko saito
2011年7月14日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ゴボウ君と大根君

村山籌子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/